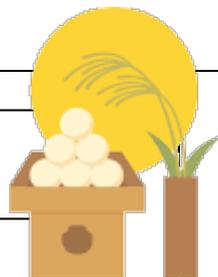


パーキンソン病について No4



話題の新薬 イニシンク配合錠

2型糖尿病治療剤

パーキンソン病の重症度

パーキンソン病の病気の進行度を示す指標として、通常「ホーン・ヤールの重症度分類」と「生活機能障害度」が用いられています。なお、ヤールⅢ度以上、生活機能障害度2度以上の場合は、特定疾患医療費補助制度が受けられます

① ホーン・ヤールの重症度分類

● I 度

ふるえなどの症状が片方の手足のみ

● II 度

ふるえなどの症状が両方の手足にみられる

● III 度

姿勢反射障害（体のバランス障害）がみられるようになった場合

● IV 度

日常生活に部分的な介助が必要になった場合

● V 度

車いすでの生活や、寝たきりとなった場合



② 生活機能障害度

生活機能の障害度に応じて1～3度の3段階に分類されています

● 1 度

日常生活、通院にほとんど介助を要さない

● 2 度

日常生活、通院に介助を要する

● 3 度

日常生活に全面的な介助を要し、歩行・起立が不能

パーキンソン病は、罹病期間が長くなるにしたがい、症状が進行していく疾患です。

病状の進行の速度は個人によって異なります

イニシンク配合錠は、武田薬品で開発された2型糖尿病治療剤。本剤は、DPP-4阻害剤とBG系薬の配合剤としては初の1日1回投与製剤である。DPP-4阻害剤のアログリプチン（ネシーナ）によるインスリン分泌促進と、BG系薬のメトホルミン（グリコラン）によるインスリン抵抗性改善の両面からの効果が期待されている。また、配合剤にすることにより服薬回数および服薬錠数が減少し、患者さんの服薬アドヒアランスの向上が期待できる。通常、成人には1日1回1錠（アログリプチン / メトホルミン塩酸塩として25 mg / 500 mg）を食直前又は食後に経口投与する。

薬価 1錠 = 174.2円

副作用情報 ロキソニンパップ・テープ・ゲル

第一三共から販売されている経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤の「ロキソニンパップ・テープ・ゲル」は、直近3年の副作用報告であって、因果関係が否定できない副作用として、「ショック、アナフィラキシー関連症例」が2例報告された。そのため重大な副作用の項に「ショック、アナフィラキシー」が追記された。

ほどほどの飲酒も脳に有害か？



ほどほどの量の飲酒でも、脳には有害な可能性があるとの研究が英医学誌に発表された。飲酒の「適量」を巡る議論に一石を投げよう。ロンドン大などのチームは、平均年齢43歳の健康な男女500人余りを1985年から約30年間追跡。定期的に脳機能の検査をし、終了時にはMRIの検査も加えて、飲酒量との関係を調べた。日本のビール中瓶に換算して1日1本程度の飲酒量でも、記憶などをつかさどる脳の海馬という部位が萎縮するリスクが、飲まない人より約3倍高いとの結果が得られた。